

真庭市立勝山中学校 いじめ防止対策基本方針

令和7年4月1日

いじめに関する現状と課題

- ・いじめは、全ての生徒に関係する問題であることから、生徒が安心して学習等に取り組むことができるよう、学校内外を問わず、いじめが行われないようにする。
- ・本校のいじめの認知件数は年間数件程度で推移しており、上級生になるに従って減少している。発生は1学期の人間関係作りの段階が多く、小学校からの人間関係に起因している場合も多い。また他人をからかう行為は上級生においても見られる。最近はSNS等への書き込みに起因する生徒間トラブルが非常に増加している。

いじめ問題への対策の基本的な考え方

- ・生徒指導委員会が中心となって、担任や学年団だけにまかせず、いろいろな立場からいじめ問題解決のための取組を行う。
- ・地域の各団体にも情報を提供し、地域連携を図る。
- ・いじめの未然防止に向けて日常的に生徒の様子を観察すると共に、褒めることで生徒を認め、自己有用感を感じられるようにする。
- ・職員研修を行い、「いじめ」についての認識を深め、共有する。
- ・年2回のQ&A実施や年3回生徒全員対象の教育相談を実施することで生徒理解に努め、いじめの早期発見、情報の共有化を図る。
- ・「生徒の声が聞こえる」授業の実践や学校行事、部活動などで生徒の活躍の場面を多く設定し、達成感を感じられる学校をつくりを進める。
- ・**〈重点となる取組〉**
 - ・生徒から「いじめられている」（いじめを見た）などの情報が出やすい様な教師と生徒との人間関係を構築する。
 - ・SNSの利用やネット上のいじめについての認識を深め、いじめの認知能力やその後の対応能力向上のための教職員研修を実施する。
 - ・6月の「いじめについて考える週間」において、全学年・学級で道徳を実施し、いじめに対する意識の高揚を促す。また、生徒会活動を支援し、いじめを許さず、トラブルを自分たちで進んで解決しようとする態度を育てる。
 - ・生徒のインターネット利用実態を踏まえ、各学年で全ての生徒に対して情報モラルに関する授業を毎年実施する。
 - ・生徒・保護者・学校それぞれの立場から、携帯・スマホ・インターネットの利用に関するルールを考えていく。

保護者・地域との連携

〈連携の内容〉

- ・**勝山中学校区生徒指導部会**で懇談の機会を設け、生徒の学校外での生活に関する見守りや情報提供の依頼を行い、いじめの早期発見に努める。
- ・学校評議員・主任児童委員の協力を得て、地域・家庭での相談や情報提供の依頼を行い、いじめの早期発見・対応に努める。
- ・学校のいじめ問題への取組について保護者の理解を得るとともに、PTA研修会や地区別懇談会等を活用したいじめ問題についての意見交換や協議の場を設定し、取組の改善に努める。
- ・インターネット上のいじめ問題やスマートフォン等の正しい使い方等について啓発のための研修会を実施する。
- ・保護者の教育相談を実施し、状況によっては養護教諭やSS・SCとの面談を実施する。学級便りなどで生徒の状況を連絡する。

学 校

いじめ対策委員会

〈対策委員会の役割〉

- ・基本方針に基づく取組の実施や年間計画の作成、実行・検証・修正の中核、相談窓口、発生したいじめ事案への対応
- ・**〈対策委員会の実施時期〉**
 - ・いじめが発生したとき、すぐに開催する。
- ・**〈対策委員会の内容の教職員への伝達〉**
 - ・職員会議で全教職員へ周知。緊急の場合は朝礼等で伝達
- ・**〈構成メンバー〉**
 - ・校内: 管理職、生徒指導主事、教育相談担当、養護教諭、SC、SS
 - ・校外: PTA会長、市子育て支援課
学校評議委員、主任児童委員
(場合によって)

全 教 職 員

関係機関との連携

連携機関名: 真庭市教育委員会

連携の内容: ネットパトロールによる監視
保護者支援のための専門スタッフ派遣

学校側の窓口: 管理職

連携機関: 真庭警察署

連携の内容: 非行防止教室の実施
情報モラル教室の実施
夜間校舎敷地の見回り
情報交換・連絡会の実施

学校側の窓口: 管理職

連携機関: 城北塾 白梅塾

連携の内容: 不登校生徒の受け入れ・相談、定期的な情報交換
ケース会議の開催

学校側の窓口: 管理職、養護教諭

連携機関: SSW (スクールソーシャルワーカー)

連携の内容: 不登校生徒家庭訪問・相談、定期的な情報交換
ケース会議の開催

学校側の窓口: 管理職、養護教諭

学校が実施する取組

いじめの防止	①	(生活環境づくり) ・生徒の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流の能力の素地を養うと共に、いじめが生まれにくい環境をつくるため、全ての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動の充実を図り、予防的な生徒指導を推進する。
		(職員研修) ・教職員の指導力向上のための研修として、生徒のネット利用の状況と指導上の留意点についての研修を行う。
		(生徒会活動) ・いじめや人権について、意識の向上を図る。
		(居場所作り) ・日常生活の授業や部活動、行事など生徒が達成感を感じ、充実感を感じられる学級・学校作りを進める。
		(情報モラル教育) ・インターネット利用に関して真庭警察署や民間企業から講師を招いて情報モラル教室を行い、正しい使い方と危険性を学ぶ授業を行う。
		(実態把握) ・生徒の実態把握のため年2回Q&Uを実施し生徒理解に努める。またその結果を活用し生徒全員対象の教育相談を年3回行う。
早期発見	②	(相談体制の確立) ・日頃から休み時間などに生徒の様子に目を配り、生徒の小さな変化も見逃すことがないようにしていく。また、きめ細かく声かけを行い、相談しやすい人間関係を構築していく。
		(情報共有) ・生徒の問題行動や気になる様子などについて、いつでも早急に情報共有できる体制を強化する。
		(家庭への啓発) ・学年便りなどを活用し、生徒の様子を知らせるとともに、参観日やPTA総会などで資料を配付することで意識の向上を促す。
		(いじめの有無の確認) ・いじめについての情報が入った場合には、いじめ対策委員会と協力して担当学年・担任等が中心となり速やかに事実の確認を行う。
		(いじめへの組織的対応の検討) ・いじめへの組織的な対応を検討するため、速やかにいじめ対策委員会を開催する。
		(いじめられた生徒への支援) ・いじめの事実が確認された場合には、速やかに生徒の精神的・身体的安全を第一に考え全教職員で支援を行う。また当該生徒の保護者に対しても同様に支援を行う。
いじめへの対処	③	(いじめた生徒への指導) ・いじめた生徒には事実を確認するとともに、該当生徒へ与えた精神的・肉体的苦痛を理解させ、決して許されない行為であることを理解させる。同時にいじめた生徒の抱える問題や人間関係などをきちんと把握し、保護者と協力して正しい人間関係の構築が出来るように継続して指導していく。
		(他の生徒への働きかけ・啓発) ・アンケートや道徳、生徒集会などを実施し、生徒へ正しい人間関係作りを啓発していく。
		*いじめが犯罪行為と認めるときは、警察との連携を図る。